

第4学年 国語科学習指導案

授業者 蛭澤 佐知子

1 単元名 読み取ったことをもとにごん日記を書き、伝え合おう

2 学習材 「ごんぎつね」(教育出版) 教科書教材

3 単元について

本単元は、教材文「ごんぎつね」を通して、叙述に即して想像しながら読むとともに、小ぎつねのごんと兵十の関係として繰り広げられる心の葛藤をイメージ豊かに読み深めることをねらいとしている。

これまで児童は3年「モチモチの木」で豆太の行動や心情の変化を読み取る学習をしてきている。4年では、「白いぼうし」や「一つの花」で場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、話し合う活動を行ってきた。子供たちは、自分の考えを書くことはできるが、友だちの考えと結び付けて考えることは十分ではない。

そこで本単元の言語活動では、読み取ったことをもとにごん日記を書いていく。会話文や行動を手がかりとして二人の心情の変化を読み取る。そして自分と友達のを考えを合わせて、もう一度ごんの気持ち想像して日記に書くことで力をつけていきたい。

4 指導計画(10時間)

◆指導事項 3. 4年「読むこと」

イ 登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉えること。

エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像すること。

◆言語活動

次	時	主な学習活動と内容	
1	3	◎課題を明確にして、学習の見通しをもつ。 ①教材文を読み、あらすじをつかむ。 ②感想を書き、発表する。 ③「ごん日記」を書くための読みのめあてを決める。	
2	6	◎場面ごとにごんと兵十の行動や会話からごんの気持ちを読み取り、ごんになったつもりで「ごん日記」を書く。 ④いたずらをした時のごんの気持ちを考える ⑤兵十の母の死を自分のせいだと思ふごんの気持ちを考える。 ⑥つぐないを始めるごんの気持ちを考える。 ⑦自分の行動を兵十がどう思っているか気になっているごんの気持ちを考える。 ⑧引き合わないと思ふごんの気持ちを読み取る。 ⑨つぐないを続け、兵十に打たれた時のごんの気持ちを読み取る。	並行 読書 新美 南吉 の本
3	1	「ごん日記」を読み合う。	

5 本時の指導 (9/10)

(1) 目標 目をつむってうなずいたごんの気持ちを考え、ごん日記を書く。

(2) 仮設との関連

文学的な文章に関する教材の読みを基調として、課題について書いたり交流したりして考えを深め、授業の振り返りの在り方を工夫していけば、「書くこと」を通して読む力を向上させることができるだろう。

本教材は、いたずらばかりするごんが兵十のおっかあの死をきっかけに償いを始めるが、ごんの兵十に対する思いは、親しみに変わっていく。しかし、ごんの行動が兵十にわかってもらえたのは、火縄銃で撃たれた後というドラマチックな展開である。児童が場面ごとにごんや兵十に寄り添うことで思いを深めていける教材である。ごんと兵十の関わりを通して、ごんの気持ちや葛藤を想像させ、「ごんぎつね」の世界を味わわせていきたい。

一次では、「ごん日記を書く」という課題を明確にして、読みのめあてを決めていく。

二次では、場面ごとに教材文を深く読み、ごんの行動や心の動きを読み解いていく。本教材は6つの場面構成されているので、場面ごとに読みごん日記を書いていく。自分で読み取ったことと友達の意見を合わせ、ごんになったつもりで日記を書くことで、本時を振り返り、まとめる活動になると考える。

三次ではごん日記をグループで読み合う。友達の日記を読むことで表現の違いに気づくことができると思う。

(3) 展開

学習活動と内容	過程 時配 形態	○指導 ○評価 ☆仮説との関わり
<p>1 学習範囲を音読する。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>兵十が火縄銃をうち、ごんは倒れた時、二人はどんな気持ちだったのだろうか。</p> </div> <p>3 兵十とごんの気持ちを話し合う。</p> <p><兵十></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ようやくいたずらきつねのごんをしとめられた。 ・ずっとくりやまつたけを置いていたのがごんだと知ってショックだった。 ・もっとはやく気づいていればよかった。 ・取り返しのつかないことをしてしまった。 <p><ごん></p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっと兵十に気づいてもらえた。うれしい。 ・これでやっとなかなかよくなりました。 ・もっと兵十となかよくなりました。 <p>4 話し合ったことをもとに、もう一度自分の考えを整理し、ごん日記に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いたずらをしてしまい、ごめんなさい。ずっとあやまりたくてくりやどんぐり、魚をもっていったんだ。わかってもらえてうれしい。 ・わかってもらえて良かった。よろこんでもらいたかただけなんだ。ぼくは、ひとりぼっちでさびしかった。ぼくのせいで兵十もひとりぼっちになってしまった。いたずらをしたことを後悔している。ごめんなさい。 <p>5 ごん日記をペアで読み合う。</p>	<p>見出す (5)</p> <p>一斉 深める (20)</p> <p>書く (10)</p> <p>深める ペア (5) 一斉 (5)</p>	<p>○ごんが兵十に撃たれる場面であることを確認する。</p> <p>○自分の考えは前時に書いておき、すぐに話し合えるようにしておく。</p> <p>○叙述をもとに考えていることやこれまでの学習をふまえて考えていることを大切にする。</p> <p>○友達の意見でいいなと思ったものや自分にはない意見と思ったものはノートに書き留めるようにさせる。</p> <p>○自分の考えと友達の考えを合わせてもう一度考えて、ごんになったつもりでごん日記を書くようにする。</p> <p>○困っている児童には、自分の考えを中心に書くように声をかける。また書くてがかりになれるような文のカードを用意する。</p> <p>◎情景や言動の叙述をもとに想像して読み、ごんの視点から日記を書いている。(日記)</p>

(4) 板書計画

ごんぎつね	新美南吉
④学	兵十が火なわじゆうをうち、ごんはたおれた時二人はどんな気持ちだろうか。
兵十	・くりやまつたけをもってきたのはおまえだったのか。 ・取り返しのつかないことをしてしまった。
場面絵	ごん
・わかってもらえてうれしい ・いたずらをしてごめんなさい。 ・もつとなかよくなりたかった。	